

平成 29 年度 因島北認定こども園 自己評価結果

1 因島北認定こども園教育・保育目標

<p>『心身ともに豊かな人間形成の基礎を培う』</p> <p>(1) 基本的生活習慣の自立を目指す。</p> <p>(2) 人と関わる力をつける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の感情をコントロールする。 ・人の話を聞き、自分の思いや考えを話す。 ・自発性や主体性を育て協同的遊びをする。
--

2 本年度に定めた重点的に取り組むことに必要な目標や計画をもとに設定したこども園評価の各年齢の具体的な目標や計画

<p>「心と身体をたくましく育てよう」</p> <p>① 自己肯定感を持たせる。</p> <p>② 仲間とともに助け合い、共感できる力を育てる。(社会性・共感性)</p> <p>③ 自ら熱中できる力を養う。(主体的・意欲的な心)</p>
--

3 評価項目の達成及び取り組み状況

A	十分達成されている	C	取り組まれているが成果は十分ではない
B	達成されている	D	取り組みが不十分である

評価項目	内 容	結 果	理 由
子どもの発達援助 (1) 発達援助の基本	○一人一人の園児の発達状態に配慮した指導計画を作成し、定期的に評価を行いその結果に基づき指導計画の見直しを行う。(PDCAサイクル)	A	幼保連携型認定こども園教育保育要領に基づき因島北認定こども園の全体的な計画を立案し、年齢毎に年間指導計画、月間指導計画、週間指導計画を作成している。毎週園内研修を行いPDCAサイクルに基づいて子どもの育ちを確認し保育内容の再構築を行っている。 また、月 1 回カリキュラム会議を行い各年齢の整合性を図っている。
(2) 健康管理・食事	○一人一人の健康状態に応じて健康管理を行う。	A	0・1・2 歳児クラスにおいては毎日連絡ノートを用い、家庭と園で情報交換を行い健康状態の把握をしてみた。また全クラス毎日午前と午後の 2 回、検温を実施し、0 歳児クラスにおいては午睡時の 5 分間隔チェックを行っている。異常が認められた時には看護師と連携し危機管理対応マニュアルを基に対応していく。

<p>(3) 保育環境</p> <p>(4) 保育内容</p>	<p>○因島北認定こども園の食育年間計画を基に意欲を持って食に関わる体験を積み重ね食事を楽しむ子どもに育てる。</p> <p>○園児が自発的に活動できる環境の工夫を行う。</p> <p>○園児一人一人を受容し理解を深めて働きかけや援助が行われている。</p> <p>○地域の教育力を活かした教育・保育内容が構築されている。</p>	<p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>A</p>	<p>栽培収穫、クッキング保育、三色食品運動を通して食育を行っている。保護者に対しても食育講座を実施し啓発活動を行った。</p> <p>7月と3月に 安田女子大学教育学部児童教育学科教授に来園していただき講義を受け、実際に構成していった。</p> <p>0・1・2歳児においては個別月間指導計画を作成し、個に応じた成長発達を促している。また、スキンシップや応答的関わりを多く持ち愛着関係を築きながら情緒の安定を図っていった。</p> <p>特別に支援の必要な園児に対しては、年間指導計画月間指導計画、週間指導計画を立案し個別の支援を丁寧に行っている。</p> <p>安田式体育遊び『子ども忍者タイム』の活動を通して、仲間とともに助け合い、共感できる力、自ら熱中できる力を養っていき、体幹や運動能力を高めていった。</p> <p>地域の方の教育力を活かし、年間を通し「囲碁教室」「おはなし広場」「おはなし玉手箱」を行い、数・量・広さの感性を豊かにし考える力を養っていったり、言葉の獲得や想像する楽しさを味あわせていったりした。</p>
<p>小学校との連携</p>	<p>○小学校との連携が円滑に行われているか。</p>	<p>A</p>	<p>因北校区連携プロジェクトの中で校区内の尾道市立因北小学校と尾道市立西浦保育所とともに円滑な接続に向け、様々な計画を立案・実践し考察した後、教育・保育に活かしている。</p> <p>(生活振り返り表の取り組み・子どもの交流会・アプローチカリキュラム・スタートカリキュラムの検討・実践等)</p>
<p>子育て支援</p> <p>(1) 保護者への支援</p>	<p>○保護者と信頼関係を築き連携や情報交換を行いながら教育・保育に関する理解を深める。</p>	<p>A</p>	<p>4月の家庭訪問に始まり、送迎時を利用しての連携、個人懇談、クラス懇談会等を行い保護者と連携を深めている。また、子育てお役立ち情報を発信したり、行事の様子やねらいについて写真とともに掲示したりすることで教育・保育への理解を深めている。ホームページからも行事の様子を発信している。</p>

<p>(2) 地域への支援</p>	<p>○地域の子育て支援の拠点として、地域の子育て家庭を対象とする子育て支援を行う。</p>	<p>A</p>	<p>子育て支援室に専任保育教諭を配置し未就園児に遊びの提供を行ったり、保護者に対しては子育て相談に応じたりしながら子育て支援を行った。親子合わせ延べ 1682 名の利用があった。 また、保護者支援として未就園児の一時保育を行っている。延べ 824 名の利用があった。</p>
<p>子どもの安全</p> <p>(1) 安全管理</p> <p>(2) 衛生管理</p> <p>(3) 危機管理</p>	<p>○事故や災害、不審者に適切に対応できる体制がある。</p> <p>○食中毒や感染症に対する予防や対策についてマニュアルに基づいて適切に実施する。</p> <p>○危機管理マニュアルに基づき園児の安全に留意し適切に対処する</p>	<p>B</p> <p>A</p> <p>B</p>	<p>火災や災害に対しての対応訓練を毎月行い、年間 1 回は総合訓練を行い消防署職員に指導を受けている。また、大地震後の津波発生を想定して因北中学校の生徒の協力を得、高台への避難訓練を行っている。 不審者対応マニュアルに基づいて因島警察署生活課の指導を受けながら対応訓練を行った。</p> <p>食中毒を起こすことはなかった。感染症については、発生した場合は手洗い・うがいの徹底を励行し、保育室の掃除・消毒を徹底することでインフルエンザの罹患者も少人数であった。</p> <p>職員一人一人が危機管理ファイルを所有し 4 月に研修を行った。リスクマネジメント計画に沿って、毎月担当職員を中心に、安全について研修を行っていることが功を奏したのか、大きな事故や怪我はなかった。</p>
<p>運営管理</p> <p>(1) 組織運営</p> <p>(2) 守秘義務の厳守</p>	<p>○職員間の信頼関係を築き教育・保育についての意識統一ができており、それぞれの適切な役割ができている。</p> <p>○保護者や子どものプライバシーの保護、知り得た事柄の秘密保持をはかる。</p>	<p>B</p> <p>A</p>	<p>開園 2 年目の職員集団である。園長⇔副園長⇔主任⇔中堅保育教諭⇔若手保育教諭への相談・連絡・報告の徹底の努力を図り、同僚性が持てるような研修を行っていった。</p> <p>毎日の職員間のミーティングで様々な情報交換を行っているが、職務として守秘義務があることを知らせ、例えば職員の家庭内においても口外しないことを指導していった。</p>

4 第三者評価委員からの具体的な目標や計画の総合的な評価結果と今後の課題

結 果	理 由
A	<p>本園は、新しい就学前教育の在り方を目指して尾道市立中庄幼稚園と尾道市立外浦保育所・尾道市立大浜保育所の廃園・廃所に伴い、大きな期待の中の開園で2年目になった。</p> <p>教育・保育目標の『心身ともに豊かに人間形成の基礎と培う』は、昨今の子育て課題や義務教育の課題を踏まえたもので評価されるものである。</p> <p>教育・保育カリキュラムにおいては、教育保育要領を踏まえながら地域の自然・人材・施設等の教育財を最大限に活用し多様なものとなっており、とりわけ、郷土愛を意識した“囲碁教室”遊具や整備されたグラウンドでの“体育遊び”は園児の自己肯定感や人との関わる力の育成に成果が出ている。また、地域や保護者からの要望の強い特別な支援を必要とする園児への取組や0歳児からの保育の受入れ等についても、園長をはじめ、全ての保育教諭による丁寧な情報共有や対応が高い期待に応えられ評価も得ている。</p> <p>今後は、より複雑な子育て支援に対応できる保育教諭のための資質向上研修をはじめ運営管理の組織性の構築とともに、保育・教育内容の整合性から系統性を意識していくことにより、一層の経営の充実・深化につながり、特色ある園づくりや新しい園の伝統となっていくことを期待してやまない。</p>